

# 善福寺川整備工事（神通橋下流から西田端橋の区間）についての説明会

## 議事要旨

### 1. 開催概要

日 時：令和3年3月26日（金曜日） 19：00～20：40

場 所：松溪中学校

参加者：11名

### 2. 説明内容

- 1) 善福寺川の整備について
- 2) 善福寺川整備工事（その204-2）について

### 3. 主なご質問・ご意見と都の回答（要旨）

Q1 神通橋の前に住んでいる。今回の説明を聞いて怒りで声が震える。住民の意見を都は聞いているのか。40メートルのクレーンを再び使うということだが、2年間クレーンが倒れるのではないかと緊張した状況の中で生活していた。工事中に事故もあった。住民への健康被害に対して都は何ら考慮していない。そして、どういう健康被害があったかどうか、何度もお願いしているが反応がない。確かに17年前くらいに洪水があり、それを大義名分に洪水を少なくしようというのはわかるが、今回の工事は過剰であり、やりすぎだ。そして、住民は非常に苦勞をする。なかには血圧が上がる人、動悸が出る人、私の家族は体調を崩した。そのことに対して今日は何らかの説明があると思ったがなかった。住民側への説明と同意をお願いする。これは人権問題だ。工事をやるのは良いが、長い工事の中でごく一部のものだけが不平等な扱いを受けている。不平等をなくしてほしい。1、2か月程度、長くても1年は我慢するが、2年間も40メートルのクレーンが目の前を動くのは看過できない。まずは説明と同意、説明をすれば良いということではなくて、まずは同意をとってほしい。大雨が降って洪水が出るかもしれないが、それは50パーセントであり、起こるかもしれないことにおいて、苦痛を長期間与えるというのは令和の工事のやり方だろうか。この工事のやり方が本当に適切だったのか考えてほしい。工事区間280メートルの中での不利益、被害を被る人がいるということを理解して、その人たちの声を聞いてほしい。2年間義務は果たした。これ以上苦しめないでほしい。それに対して何らかの説明をお願いしたい。このままいったら人権侵害だ。第三建設事務所には何回も言っているが反応もない。こんなでたらめな工事はやめてほしい。

何回も言うが住民の健康を聞いてほしい。同意が必要である。この工事を本当にもう一度見直してほしい。そして40メートルの高いクレーンを目の前でやるのは耐えられない。

A1 これまでいただいた意見を踏まえ、先ほど説明した通りできるだけ小さい23メートルのクレーンを使う施工計画をたてている。また、この箇所はすぐに水位が上がる危険な箇所であり、平成17年にも溢れている。やはり河川工事、護岸工事を進めていかなければいけない箇所であると我々は理解している。そういった中で、皆様への負担を考えて、作業構台をやめる、また西田端橋と神通橋の真ん中まで戻ってくるように施工を行うことなど見直しを行い、今回この場で説明させてもらった。

Q2 次回工事では、今回工事で河川の中心に設置する鋼矢板を設置して、工事中は片側に水を流すということであるが、大水で川が溢れるリスクが高まることはないのか。また、せき止めている部分に何か引っかかるようなことはないのか。

A2 工事を行っているときは、鋼矢板で締切りをして片側に水を流すが、大雨が降って川の水が増えた時は、せき止めている土のうが崩れて工事作業ヤード内にも水が流れるようにしており、全断面に水が流れるように考えている。土のうが崩れて水が入るので、前面に何か残るようなことはない。

Q3 神通橋と西田端橋までの中間点まで行く、そして川の底を広くするのにクレーンを使うということだが、私は工事のことにに関しては素人なので検討されれば良いと思う。しかし、3年位前に工事の説明のスライドを見て進行できるかなと思ったが、実際には近隣住民はつらい生活を送らねばならないということを実感した。そこで、月1回は現場に接する住民の健康調査、意見、それから工事についての同意、説明である。現場に住んでいる人にとってこの工事は過剰であり、つらい。住んでいる場所によってメリット・デメリットを受ける人の差が大きいので調査してほしい。メリットを受ける人、デメリットを受ける人の不平等がこの工事では生じるということに目を向けてほしい。私たちは2年我慢した。202工事から204工事について、そこに入札制度があると聞きなると思ったが、その間決まらないではないか。今3ヶ月間、あの殺伐とした風景が目にある。この工事はハラスメントになるということを受容してほしい。病人も出だし引越したものもいるが、それに対して何ら対策をしていない。

質問は、説明と同意をとること、メリット・デメリットのあるところに対する対応をとること。

A3 メリット、デメリットの調査は、これまでにいただいた意見を参考に、前回工事では、工事の影響範囲図(日々の作業で影響のある範囲を図示したもの)を作成し記録として残しており、今回の工事でも実施していきたいと考えている。健康被害の調査については、受注者が週間工程表を配る際など、意見をうかがっており、今後も、皆様の健康状態を聞きながら工事を進めていきたい。体調が悪くなった方がいるという話も伺っているが、それについては、個々の事情があると思うので、個別に相談させてもらえればと考えている。

工事の同意について、工事をやる、やらないについては、これは公共工事として治水安全の向上のため、工事は実施させていただく。ただ、その中で、振動騒音という問題があり、音がうるさいなどがあれば、いったん工事を止めて、対策を講じた中で作業を継続していきたいと考えている。

Q4 説明会を開催してもらい感謝する。公共事業としてやっていかなければならないが、住民の納得をどう取っていくか、みんなで知恵を出し合いましょう。今神通橋付近の住民の方から、健康被害など懸念材料がいっぱい出た。工事をしながら我々自治会と皆さんで検討委員会をつくれれば良いのではないかと。今、防犯カメラを付けることを自治会の役員会で検討している。防犯カメラの設置に反対はないが、それを付ける場所、そしてプライバシーをどうするかという話が出てくる。監視カメラになってはいけない。河川工事というものは洪水から皆さんを救うためのものである。せっかくいいものをやろうとしているのに、住民の皆様に健康被害などいろいろあった。そういうものを皆さん検討しているのであれば、自治会も協力するので、工事期間中に何か問題があれば即座に協議する場をつくれれば良いのではないかと。近くには小学校、中学校、保育園もあり、通学路に工事の搬入のダンプなどが来る、そういう危険を皆さんはどう感じているか。そういうものを事前にもっと住民と打合せをしていく。それをやり始めたら、月一回とか集まって検討する委員会を立ち上げてはどうか。今例に挙げた防犯カメラと同じで、いいものをつくるからいいだろうでは納得いかない。プロがいるのでクレーンなどについては信頼して任せましょう。しかし危険性があるならば、お互いにコミュニケーションをとる態勢をつくりましょう。どうしてそういう答えが出ないのか。こういう説明会のように住民の意見を聞いて、もし問題がでたらすぐに見に来てもらって、いつでも工事受注者、第三建設事務所、住民のみなんで協議をする、

そういう答えでいいのではないか。自治会としては住民の苦情や意見も聞いて、皆さんに投げかける。それに答えてほしい。それでこそすばらしい河川ができると思う。

A4 意見交換会のような形で何かまたいろいろ出てきたら、相談させてほしい。

Q5 神通橋の袂に住んでいる。今、自治会から建設的な意見があった。実は都と我々地元とは1、2ヶ月に1回くらい、定期的にミーティングを行っている。ただ、自治会となると広い範囲となり、我々が感じている問題点と遠いところに住んでいる人の問題点は一致しない。それで、我々近くに住んでいる人間が綿密にミーティングを行った。ミーティングをしても、騒音とか振動とか規制値があって、守ってくれれば問題ないが、守らない。いくらミーティングをしても良くならない。いくらお願いしてもその数値より下げることができなかった。毎日恒常的にオーバーしていたし、そのデータも持っている。物理的にできないことがこの工事で起こっている。これからまだ2年くらい工事が続くが、その工事期間中に同じことが起こるのではないかとということを我々は心配している。

1点目は、物理的にルールを守って工事ができるのかそういう話をしっかりしてほしい。

2点目は、騒音振動の値がオーバーしたときにどのような対策を練って、オーバーしないようにするのかということ。東京都の職員もずっと現場にいて、いかに騒音振動が激しいかということを経験してほしい。私の家から20m離れるだけでこういう苦痛はない。我々は目の前で機械が動いている。公共工事でこういう工事をしてもらうのはありがたい、こういうことをしないと災害が防げないということをよく理解しているから、我々も我慢して結局2年が過ぎた。住宅地の中でやる工事のやり方はこれが本当にベストなのかということ、一度専門家に意見を聞いてみたいと思っている。パブコメを取ったということを知っているが、公園の中で民家がないところと、今やっている区間は環境が違う。パブコメの内容も環境というと鳥や魚へ配慮してほしいといった意見ばかりで、住民の騒音振動に対する心配はなかった。パブコメの取り方が悪い。今の1つ目と2つ目の質問にしっかりと答えてほしい。それに満足できないと工事を進めてもらっては困る。

3点目は、西田小学校があり、小学校の低学年の子供たちは、神通橋を渡って学校に行く人もたくさんいる。橋が架け替わるので、ぜひ新しい橋を架けるときは従来よりも安全に配慮した橋にしてほしい。

A5 工事の際に騒音振動に関してご迷惑をおかけしているのは重々承知している。先ほど説明したとおり私どもは環境調査ということで騒音振動調査をしているが、これまで定められた解析方法に基づいて解析した結果については、法令、条例の規制値に収まっているという結果であった。ただし、規制値に収まっていればいいというわけではないので、騒音振動についてなるべく抑えられるように、施工方法の工夫や防音シートの設置などを検討していく。例えば、エンジンカバーをかける、ゆっくり走るなどいろんな工夫をしながら、できるだけ皆様の負担にならないように考えている。また、規制値を超えた場合、その時は一度工事を止めて、対策を検討するというをやっていきたい。

神通橋については、最終的には杉並区の橋であり、すでに橋台の部分が出来上がっており、都としては今後そこにけたを架ける工事を行う。橋の幅員は、今の幅員が5メートルですが、今度新しく架かる橋が6メートルとなり、幅員が1メートルほど広がる。

Q6 歩道の確保はできないのか。小学生の低学年が渡るのは非常に危ない。西田端橋では本当の橋を架けた後、歩道を別に架けている。バスも通るしニーズが高かったからそうなった可能性がある。神通橋はせっかく架け替えるので、100年に1回あるかないかのことから、将来のことを考えた橋を作ってほしい。歩道を別に架ければ良い。土台が弱くても歩道をつけるには十分だと思う。せっかくの機会なので、ぜひやってほしい。

A6 神通橋はすでに鋼管杭を打っており、幅員をさらに広げようとするのは現状できない状況である。別に歩道を架けるとなると、将来的に道路の橋となるため、杉並区とも相談しながら考えたい。

- Q7 西田端橋下流に住んでいる。工事の内容についてはある程度理解できた。今回は神通橋と西田端橋の間までの工事ということであり、そのあとの西田端橋までの工事はどのくらいの期間で進むのか、それから松溪橋までの工事がどのくらいの期間で完成するのか明確にしてほしい。
- 最初に質問された方から、一番大きな問題として、人に対する影響や、家屋、環境に対する影響が甚大だということが見えてきた。重機や鋼管などを見ているととんでもない工事が始まったというのが最初の印象である。計画を進めていくと色々な問題が出てくるが、どのように対応するのが大きな問題である。先ほどミーティングを行っているということであるが、私は知らなかった。係の担当の方と地元のコミュニケーションがスムーズにっていない。騒音も現場にいる人と離れた人では全然違う。その辺の実感は我々はわからないので、近づいてくるとどんなに大変かということが改めてわかる。そういうセンスを工事を管理する側として考える必要がある。それが欠けているのが公共工事での一番の問題だ。ですからコミュニケーションをとることが非常に大事である。工事の内容によってはどうしても問題が出てくるが、それを都がどのくらい予測して事業をしているのかということが見えてこない。質問をしても決まり切った回答しか返ってこない。質問者は現実問題として質問をしているが、工事を担当している人はそれを判断できない。工事の内容に関してはわかるが、それ以外に関するいろいろなことは基本的には関知しない。今日は大きな問題がはっきりしていることを実感した。一つの担当ではなくて、関連する課、環境の担当課、連携して進めていく、そして住民に対応するということが必要である。工事の課だけでは担当しきれないので、関連する部所と一体になってやっていかないとものごとは解決しない。組織や仕組みに大きな問題があると感じた。
- 西田端橋までの区間、それから西田端橋から松溪橋までの区間についてどういう時期、ステップで進んで、最終的に完了するまでどれくらい時間がかかるのか、それをまずはっきりしてほしい。
- A7 神通橋から西田端橋の間地点より上流の区間については、現在搬入口を探している。今実際に神通橋からやっていることと同じような工事を実施していくことになる。西田端橋から上流区間については詳細な工程ができていないので、今後説明させていただく。
- Q8-1 工事に要する期間が知りたい。全体をどこまで工事するかはわかっているはずなので、どういう括りで進めるのか基本プランがあるはずである。それを立てないで断片的にものを押し進めていくのはおかしいのではないか。
- Q8-2 入札に対する日程が決まっているはずである。それがあって、最終的にはいつ終わるのが見えないのは、住民にとってはフラストレーションが溜まる。東京都としては大きなグランドスケジュールをもっているはずであり、それを見せてほしい。工事が遅れることはあり得るが、なぜ遅れたのか、どうキャッチアップしていくのかという日程を共有してほしい。
- A8 今まで、神通橋から西田端橋という区間での計画を立てていたが、これを半分にして変更した。今度は、西田端橋の架け替えということがあり、現段階では工程がはっきりしないため今後説明させていただく。
- Q9 工事を小規模化して各家庭に雨水貯留槽、貯水タンクを設置することで、上流からの雨水を防ぐほうが効率が良い。流すことではなく貯めることを考えましょう。災害時の雨水トイレにも活用できる。
- A9 東京都の計画で1時間あたり75ミリの降雨への対応を目指していると説明したが、そのうち10ミリについては、浸透や各戸貯留などの流域対策を見込んだ計画となっており、都としては総合的な治水対策を進めている。